

みんなが住みやすい

世界にするには

小五

「あつ、優^{ゆう}先席にスーツを着た男の人がすわっている。」

これは、去年の秋に遊園地に行つたときの電車の中での話です。ぼくは、つりかわを持ちながらたくさん荷物を持っていました。電車はとも混んでいて、立っているおじいさんやおばあさんもいました。

このときぼくは、不思議に思いました。優^{ゆう}先席は、おじいさんやおばあさん、耳が聞こえない人、目が見えない人、にんぷさんがすわるための席だと思っていました。だから、

スーツを着た男の人は、どうしておじいさんやおばあさんに席をゆずらないのだろうと思いました。

後日、祖母が買ってきてくれた本を読んで考え方が変わりました。その本には、元気そうな人の中にも、実は重い病気だったり、ペースメーカーをつけていたりするなど、目に見えない病気をかかえている人がいるかもしれないことが書いてありました。

ぼくが見た優^{ゆう}先席にすわっていたあの男の人は、もしかしたら目に見えない病気やしょう害があつたのかもしれません。と思いました。

ぼくの母は、椎間板症（ついかんばんしょう）だったこともあり、こしがいたくなったり、足がしびれた

りすることがあります。コルセットをつけたり、いたみ止めを飲んだりしているけれど、とてもいたいそうです。また、ぼくの大叔父^{おじ}は、耳が不自由でほちようきをつけないと音が聞こえにくいそうです。そんな人たちが、電車の優先席^{ゆう}にすわったら、そのとき、周りの人はどのように思うでしょうか。ほとんどの人はなぜ元気なのに優先席^{ゆう}にすわっているのだろうと、以前のぼくと同じように不思議に感じると思います。

ぼくは、目に見えないところもその人なのだということがわかりました。例えば、ほちようきをつけていない耳の不自由な人や、白^{はく}じようを保持っていない目の不自由な人など、

自分の見える情報だけをたよりにしていると、その人がもつ、しう害や病気は見えてきません。

ぼくたちに必要なのは、目には見えないけれど、助けを求めたり、つらい思いをしたりしている人がいるかもしれないということを考えながら生活すること、そして気付くことです。もし、目に見えないところにも気付ける人が今よりもっと増えたら、きっとこの世界は、人の心が温かくなり、住みやすくなると思います。

ぼくは、今回の経験から、元気そうに見えていても、中には病気や苦しいこと、つらいことをかかえている人がいることがわかりました。み

んな何かをかかえて生きている。それもふくめたすべてがその人なのだということを改めて感じました。

だからこそ、かたよった見方をせず、一人一人と向き合うことが大切だと思っています。きっとその考えこそが「人権^{けん}」という意味だとぼくは思います。